

ゆるキャラの発展に見る逆張りの進化

著者	大友 信秀
雑誌名	金沢法学 = Kanazawa law review
巻	57
号	2
ページ	189-194
発行年	2015-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/41140

ゆるキャラの発展に見る逆張りの進化

The Contrarian Strategy Evolves Loose Characters.

大友信秀

はじめに

地方と呼ばれる地域は、過疎化及び高齢化が進み都市に比べ地味な印象を持たれてきた。このような地域が都市を含む他の地域から注目されるようになり、それにより活性化が進むようにと活用されるようになったものに「ご当地キャラクター」と呼ばれるものがある。ご当地キャラクターは、いわゆる「ゆるキャラ」の一種であるが、地域活性化の目的の下に利用されているため、民間企業等のキャラクターとは区別されている。

ご当地キャラクターがなぜ必要とされたのか、その機能や活用法についてはすでに別稿で論じたが¹、本稿ではご当地キャラクター全体の発展の特徴を研究対象とする。

ご当地キャラクターは、「地域」という枠（カテゴリー）に限定されていることから、その枠の中で発展することを余儀なくされた。このことにより、一つのキャラクターがある程度発展を遂げた後にこれを超越するキャラクターはその逆張り² を行くことで同じ枠の中でありながら新たに注目を浴びることを可能としてきた。本稿が対象とするのは、このような逆張り戦略の進化である。

1 大友信秀「地域ブランディングの実践と人材育成(8)」金沢法学 56 巻 2 号(2014)137-151 頁 (10.地域活性化へのご当地キャラクター利用の現状)。

2 「逆張り」は、もともと金融用語であり、投資において相場の動きとは逆に（相場が悪いときに株を買い、相場が良いときに売る）行動することを意味する。これが転じて、株の相場のようにトレンド（市場の傾向）が影響する分野で他者と逆に行動するものを指す用語として使用されるようになった。

1. ゆるキャラの発展史

絵本のキャラクターであるミッフィーやムーミン、サンリオのハローキティ等も今でいうゆるキャラと言えるが、ゆるキャラという言葉が現在のよう
に使用されるようになったのは2000年代に入ってからである³。注目される
ことのなかった当時のご当地キャラは、現在のようにプラスの意味として使用
されたのではなく、マイナスのイメージとしてゆるキャラという名称を与えら
れた⁴。しかし、このようなネーミングが地域のキャラクターをカテゴリー化す
ることで人々の目を惹きつけることになり、現在のブームのきっかけとなつた
と考えられる。

ご当地キャラクターの先駆けとして現在のブームの火付け役になつたのはひ
こにゃんである。ひこにゃんは、2006年に国宝・彦根城築城400年祭のイメー
ジキャラクターとして誕生した。2008年には、平城遷都1300年祭のマスコッ
トキャラクターとしてせんとくんが発表された(祭の開催自体は2010年)。2010
年には、くまモンが九州新幹線全面開業に向けた「くまもとサプライズ」運動
のマスコットキャラクターとして発表された。また、2012年には、ふなっしー
が非公認キャラクターとして活動を始め、翌年には「ご当地キャラ総選挙
2013」⁵で1位となり、現在の人気につながる地位を獲得した⁶。

2. 逆張りー新しいゆるキャラに不可欠な要素

ひこにゃんという典型的なゆるいキャラクターに比べ、せんとくんは逆にゆ
るくない斬新なデザインであった⁷。そのことに加えキャラクター制作経費が比

3 大友・前掲注(1)140頁注(11)参照。

4 週間ポスト2013年10月4日号(みうらじゅん発言)参照。

5 日本百貨店協会主催。

6 以上の経緯について詳しくは、大友・前掲注(1)137-143頁参照。

7 せんとくんの登録商標(商標登録第5171244号)参照。



較的高額（1000万円を超えていた）であったこと等も相俟って、市民団体によりキャラクター撤回を求める街頭署名活動が行われた。このことはご当地キャラは地域に支持されるのが当たり前というそれまでの常識に反することを意味した。しかし、このことがかえってマスコミの注目を集めることとなり、せんとくんは広く認知されることとなった。せんとくんは、偶然、それまでのゆるキャラの逆張りになってしまったことで結果として他のゆるキャラに対する差別化が行われることとなった。

ひこにゃんやせんとくんに関して、キャラクターを利用した地域活性化全体の運営は、地元自治体もしくはその関連団体によって行われていた。これに対してその後現れたくまモンは、著名な脚本家とその人脈を活用したプロフェッショナル集団により企画された⁸。それまでのご当地キャラクターは素人による関与、すなわち素人っぽさが共通する特徴とされていたが、くまモンの出現により、ご当地キャラクターをプロフェッショナル集団により企画・運営するという逆張りの戦略が示された。

くまモンがプロフェッショナルによるプロデュースで完成度を極限まで高めたことで、ゆるキャラの発展型としてくまモンを超えるものを作り出すのは困難であると思えたとき、ふなっしーが現れた。ふなっしーは、それまでのご当地キャラクターが地域公認であったのに対して、非公認でありながら船橋市（及び特産品である梨）を売り込む活動を始めた。また、それまでのご当地キャラクターが持つ共通する特徴である①話さない、②動きが鈍い、③物を食べないという点に反し、すべてを実現した。このことが溢れかえるゆるキャラの中でふなっしーを際立たせることとなり、①'話す、②'動きが機敏、③'食べるという人間のタレントと同じように活用可能な特徴も手早い、テレビ番組への出演が激増した。

このように、ご当地キャラクターとして注目を浴びたキャラクターはそれ以

8 大友・前掲注(1) 141-142 頁参照。

前の典型的成功例の逆張りを行うことで次々と新たな成功例を作り出してきたことがわかる。

3. ふなっしーは完成形か？

以上のようなご当地キャラクターの発展経緯を見ると、これまでのくまモンやふなっしーに匹敵する新しい成功例は出現しないようにも思えた。なぜならば、くまモンはキャラクターの特徴はゆるキャラの王道でありながら、そのプロデュースを素人ではなくプロフェッショナルの方法で行うという点でゆるキャラの完成形と言え、ふなっしーはそれまでのご当地キャラクターの特徴自体への逆張りの完成形と言えたからである。

実際、くまモン以降のゆるキャラグランプリ⁹の1位を見ても、それまでのゆるキャラの特徴の逆張りを行くものは見られず¹⁰、それ以外にふなっしーのような逆張り型のゆるキャラで全国的に注目されるものも出現していない¹¹。

それでは、これまでのご当地キャラクターを含むゆるキャラの発展は、ふなっしーで止まってしまったのであろうか。そして、今後の発展の余地はないということになるのであろうか。

実は、ふなっしーまでのご当地キャラクターの発展型に対する逆張り要素を抽出すると興味深い結果が明らかになる。そして、そのような要素の抽出によれば、逆張り型が当てはまる大ヒットキャラクターが今年存在していたことが明らかになる。

それまでのゆるキャラの完成形であるくまモンにもふなっしーにも共通するご当地キャラクターの特徴がある。それは、着ぐるみを使用しているという点

9 ゆるきゃら®グランプリ実行委員会により運営されている。

10 2012年の1位はバリエィさん（愛媛県今治市）、2013年の1位はさのまる（栃木県佐野市）、2014年の1位はぐんまちゃん（群馬県）である。

11 ツイッターでの発言が問題とされた北海道長万部町のイメージキャラクターであるまんべくんには毒舌キャラという逆張りの要素が見られたが、ツイッターが中止され、ふなっしーが出現してしまった現在では注目されていない。

である。このことは当たり前のように思えるが、ふなっしーのヒットは、着ぐるみを着ているのに、①話す、②動きが機敏、③食べるという点が斬新に感じられたことに起因している。そして、この点をさらに突き詰めると、着ぐるみを着ていないのに、着ているキャラクターと同じものとして捉えることができる物があれば、それこそがふなっしーに行き着いたゆるキャラの次の逆張り形態と評価できることになる。

それでは、着ぐるみを着ていないのに、着ぐるみという状態は有り得るのであろうか。着ぐるみを着ていないということは生身の人間であることを意味する。つまり、人間が着ぐるみそれ自体を演じれば、これまでのゆるキャラ路線の逆張りに行き着くことになる。

今年（2014年）の「新語・流行語大賞」の年間大賞を受賞し¹²、その評価を裏付けた日本エレキテル連合¹³の橋本小雪が演じる「おしゃべりワイフの未亡人朱美ちゃん3号¹⁴」がまさにこれに該当する。朱美ちゃん3号はコント中ではあくまでも相方の中野聡子さんが演じる細貝さんが購入した人形であるが、これを演じているのは橋本小雪という人間である。日本エレキテル連合は、コントという媒体を利用することで、人間が人形を演じる架空の世界を現実の世界に投影することに成功した。朱美ちゃん3号が単なるコント中のキャラクターを超えてヒットしたのは、このような理由があったものと考えられる¹⁵。

12 後掲注(14)のコント中で細貝さんの発する「いいじゃないの～」という台詞に呼応して朱美ちゃん3号が発する「ダメよ～。ダメダメ。」という台詞のうち後者が授賞対象となった。

13 中野聡子と橋本小雪によるお笑いコンビ。

14 中野聡子が演じる小平市の細貝さんという老紳士と橋本小雪が演じる朱美ちゃん3号（いわゆるダッチワイフ）によるコントに登場するキャラクター。

15 ただし、ダッチワイフは基本的にほぼ動かないか動きが限られおり、話す言葉もあらかじめ用意されたものに限られているため、朱美ちゃんにはふなっしーのように自由な行動は期待できない。このことから、ふなっしーに比べ汎用性が低く、来年以降の継続した活用にはそれなりの限界があるものと考えられる（橋本小雪自身にこの限界を逆に臨機応変に活用するアドリブ能力があれば話は別であるが）。もちろん、日本エレキテル連合にとって朱美ちゃん3号はあくまでもコントネタの一つに登場するキャラクターの一つでしかないため、日本エレキテル連合の活動自体はこの問題とは関係なく今後も発展するものと考えられる。

4. ポスト日本エレキテル連合は？

それでは、この日本エレキテル連合の朱美ちゃんに対する逆張りはどんなものになるだろうか。人間がゆるキャラの着ぐるみに入るといふ行為の逆張りが人間がそのままゆるキャラを演じるということになるのであれば、その逆張りは人間が他の人間を演じるということになるかもしれない。しかし、これはすでに演劇として世の中に存在していて新たに人々の興味を引くことにはつながらない。同じ構造で世の中にまだ存在していないものを想像すれば、ゆるキャラが他のゆるキャラを演じるということにでもなるか¹⁶。例えば、くまモンを演じるくまモンではないゆるキャラ、ふなっしーを演じるふなっしーではないゆるキャラという態様である。これらは著作権やその他の知的財産の利用許諾との関係でくまモンの権利者やふなっしーの権利者以外には簡単に行えないため、行うとするとその主体はこれらの権利者自身ということになる。

上記はあくまでも一つの側面から見た逆張り例であるため、それ以外の側面に対する逆張りによりこれまでのゆるキャラの発展の延長線上に現れるキャラクターは今後もあり得る。ご当地キャラクターが、このような手法を理解した上で益々発展することを期待する。

16 人間を演じるゆるキャラという態様も同様に逆張りに当たると考えられる。